

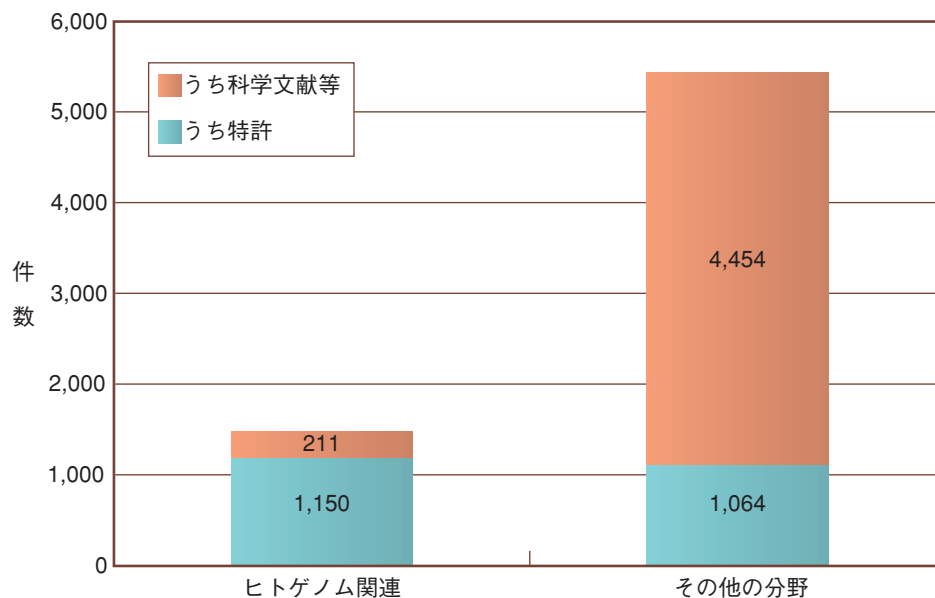
## コラム

## バイオ分野におけるサイエンスリンケージ

大学・国公立研究所等における「科学的知識（論文等）」の創出と民間企業等における「技術的知識（特許化・製品化可能な発明）」の創出との関係の実態を把握する手段の一つとして、論文と特許の引用関係を調査する手法がある。

日本における論文と特許の引用関係（サイエンスリンケージ）をヒトゲノム関連<sup>\*</sup>及びその他全分野について調査した結果、先行する特許の引用については、両分野とも70%以上の特許が他の特許を引用しており大きな差はなかったが、科学文献等の引用については、ヒトゲノム分野では300件中246件で82%と極めて高いのに対し、その他の分野では同46件、約15%と低調であることから、ヒトゲノム分野の特許における科学に対する極めて強いリンケージがあることがうかがえる。

特許における引用文献数及びその種別



	ヒトゲノム分野	その他の分野
調査件数	300	300
引用特許あり	220	261
引用特許存在比率	73.3%	87.0%
引用科学文献あり	246	46
引用科学文献存在率	82.0%	15.3%

※：ヒトゲノム分野の特許は、国際特許分類で、C12N15、C12N1、C12N5、C12N7、A61K48を抽出し、さらに明細書項目中から、ベクター遺伝子、癌遺伝子、遺伝子配列、遺伝子療法、ウイルス遺伝子、バクテリア遺伝子、細菌遺伝子、遺伝子傷害、遺伝子治療、レトロウイルス、細胞成長、細胞増殖、リンホカイン、シトキン、サイトカインのいずれかのキーワードを含むものを抽出した。